

1 経済日誌

2020年8月～2020年11月

全 国		和歌山・大阪	
8月11日	6月経常黒字 86.6% 減 財務省が発表した6月の国際収支統計（速報）で、経常収支は前年同月比86.6%減の1675億円の黒字だった。	8月5日	大阪府、人口6年ぶり増加 総務省が発表した人口動態調査で、大阪府の総人口は884万9635人となった。前年比637人増と6年ぶりの増加となった。
8月17日	GDP 27.8% 減 内閣府が発表した2020年4～6月期の国内総生産（GDP）速報値は、実質の季節調整値で前期比7.8%減、年率換算で27.8%減となり戦後最大の落ち込みとなった。	8月11日	大阪メトロ 初の赤字 大阪メトロが発表した2020年4～6月期の連結決算は、最終損益が39億円の赤字だった。2018年4月の民営化後、四半期ベースで初めて最終赤字となった。
8月21日	7月訪日客 99.9% 減少 日本政府観光局（JNTO）は、7月の訪日客数が前年同月比99.9%減の3800人だったと発表した。5カ月連続で減少幅が9割を超えた。	8月26日	国文祭 実施計画が正式承認 和歌山県は、2021年秋に開催される「紀の国わかやま文化祭2021」の実施計画を、国民文化祭実行委員会にて8月24日付けで正式に承認されたと公表した。
9月29日	基準地価 3年ぶり下落 国土交通省が発表した7月1日時点の基準地価は、全国平均（全用途）の変動率が前年比マイナス0.6%となり、3年ぶりに下落に転じた。	9月29日	大阪府、住宅地が7年ぶりに下落 大阪府が発表した府内の住宅地の基準地価は、変動率が前年比マイナス0.3%と7年ぶりに下落に転じた。商業地はプラス1.8%と8年連続で上昇した。
10月2日	失業率悪化 3.0% 総務省が発表した8月の完全失業率（季節調整値）は、前月比0.1ポイント増の3.0%となり、2カ月連続で悪化した。失業率が3%台になったのは3年3カ月ぶり。	9月29日	和歌山県、下落率9年ぶり拡大 和歌山県が発表した県全体の基準地価の平均変動率は前年比1.3%減で、30年連続の下落となった。下落率は8年連続で縮小していたが、9年ぶりに拡大に転じた。
10月23日	日英 EPA 署名 来年1月発効へ 日英両政府は、包括的経済連携協定（EPA）に正式署名した。英国のEU離脱に伴う新協定で、両国での国会承認を経て、来年1月1日に発効する見通し。	10月2日	和歌山県内求人倍率 0.97 倍 和歌山労働局は、8月の県内有効求人倍率（季節調整値）は0.97倍となり前月から0.03ポイント下落したと発表した。1倍を割ったのは、2015年以来5年半ぶり。
10月30日	9月有効求人倍率 1.03 倍に低下 厚生労働省が発表した9月の有効求人倍率は、前月を0.01ポイント下回る1.03倍となり6年9カ月ぶりの低水準となった。都道府県別で17都道府県で1倍を切った。	10月27日	県立医科大薬学部 来年4月開設決定 和歌山県は、来年4月に開設予定の県立医科大薬学部について、文科相から今日23日付で設置認可を受けたと発表した。県内の大学で薬学部の設置は初めて。
11月16日	GDP 年 21.4% 増、4期ぶりプラス 内閣府が発表した2020年7～9月期の国内総生産（GDP）速報値は、実質の季節調整値で前期比5.0%増、年率換算で21.4%増となった。	11月1日	大阪都構想 再び否決 大阪市を廃止し4特別区に再編する大阪都構想の住民投票が投票され、反対が多数となった。2015年の住民投票に続き2度目の否決となった。
11月15日	RCEP 15カ国署名 日中韓やASEAN各国など15カ国は、「地域的包括的経済連携（RCEP）」に署名した。世界貿易額の3割を占める自由貿易協定で、関税の91%を段階的に撤廃する。	11月6日	和歌山県 IR 開業目標 1年延期 和歌山県は統合型リゾート（IR）の誘致について、2025年春ごろとしていた開業目標を1年先送りして2026年春ごろとする と発表した。

2 地域開発のうごき

2020年8月～2020年11月

和歌山県内

8月10日 「tanabe en+ (タナベ エンプラス)」がオープン

田辺市の市街地活性化施設「tanabe en+」がJR紀伊田辺駅前にオープンした。2階建て延べ床面積304㎡、1階は地域製品の販売店とカフェが入り、2階は多目的スペースを設置。

9月7日 和歌山市出島に冷蔵冷凍設備を備えた倉庫新設

和歌山市は、玉林園の冷蔵冷凍設備を備えた倉庫新設にあたり、同社を和歌山市企業立地促進奨励金制度の指定企業としたと発表した。延べ床面積は924㎡、2021年7月の完成を予定。

10月3日 湯浅町に避難所と一体型複合施設が開業

JR湯浅駅に町営複合施設「湯浅えき蔵」が全面オープンした。駅とカフェ付き図書館、郷土資料館、地域交流センターなどが一体となった複合施設で、災害時は避難所として利用される。

10月12日 田辺市 新庁舎整備事業の予算が可決

田辺市は、市役所本庁舎の移転建替工事等に係る予算及び債務負担行為として、約100億円を計上し、市議会で可決されたと発表した。2022年から工事に着手、2024年度の完成を予定。

10月13日 白浜町に3カ所目のITオフィスがオープン

和歌山県と白浜町は、町内3カ所目で初の民設民営となるITビジネスオフィス「ANCHOR(アンカー)」が11月1日にオープンすると発表した。「ANCHOR」には既にIT企業2社の入居が決定。

10月20日 ワークーション施設を白浜空港公園に建設

和歌山県は、ワークーションや企業誘致のための施設を白浜空港公園に整備すると発表した。県有地を賃貸し、事業者が施設整備や運営を担う官民連携で実施する。

10月21日 「城前広場」整備始まる

和歌山市は、和歌山城や和歌山城ホール、市役所など集客施設の中心に、市民や観光客が交流できる都市空間「(仮称)城前広場」の整備を開始したと発表した。2021年夏の完成予定。

10月24日 田辺市の新武道館が完成

田辺市が扇ヶ浜で建設を進めていた新武道館が完成し、竣工式が行われた。津波の浸水区域にあるため1階部分は空洞にして2・3階に避難施設にも利用できるアリーナを設置。

11月3日 古座川町に避難施設完成

古座川町が同町高池で建設を進めていた「古座川町津波避難総合センター」が完成し、内覧会が行われた。鉄筋コンクリート2階建て延べ548㎡、約260人が避難できる。

3 地域開発のうごき

2020年8月～2020年11月

大阪府内

8月1日 堺市の大蓮公園に複合施設オープン

堺市が公募設置管理制度（Park-PFI）を導入した「大蓮公園及び旧泉北すえむら資料館」の公園整備が完了しオープンした。同資料館は、カフェや図書館が入る複合施設となった。

8月6日 淀屋橋ツインビル計画出そろ

大和ハウス工業と関電不動産開発などが、大阪メトロ淀屋橋駅真上につくる高層ビルの計画を公表した。東側の京阪HDなどが計画するビルと調和したツインビルで2025年に完成の予定。

8月19日 梅田に大型ホテル建設開始

アパグループは、大阪・梅田に新たな大型ホテルの建設に着手した。大阪メトロ東梅田駅近隣に位置し、地上34階建て、客室数は1704室で西日本最大級。2022年末の開業を予定。

9月1日 うめきたエリア西側にホテル開業

米マリオット・インターナショナルと積水ハウスは、大阪市のJR福島駅近くにホテル「モクシー大阪新梅田」を開業した。同ブランドとしては日本で3軒目、大阪では本町に続く2軒目となる。

10月5日 堺市北区に都市型ショッピングセンターを出店

イオンリテールは10月15日、堺市北区の旧「イオン新金岡店」跡地に計画中の施設名称を「イオンそよら新金岡」として着工を開始し、2021年夏の開業をめざすと発表した。

10月30日 ホテル京阪 大阪・ミナミでホテル開業

ホテル京阪は、2023年春に「(仮称) ホテル京阪 なんば グランデ」を出店すると発表した。ホテルは南海難波駅近くに位置し、地上9階建てで、客室数は249室。

10月30日 マルチテナント型物流施設を着工

大和ハウス工業は、同社とフジタが共同出資した彩都はなだ開発特定目的会社が、茨木市で開発するマルチテナント型物流施設「DPL 茨木北」を、11月1日に着工すると発表した。

11月4日 西成区に新医療センターが完成

大阪市西成区の学校跡地に新築移転を進めていた大阪社会医療センター附属病院の新病棟が完成し、記念式典が行われた。新病院は12月1日に開業する予定。

11月18日 ホテル「W Osaka」来年3月オープン

マリオット・インターナショナルは、ホテル「W Osaka」を2021年3月16日にオープンすると発表した。地上27階建て、客室数は337室、「W」ブランドのホテルは日本初進出となる。

4 関西国際空港

2020年8月～2020年11月

関西国際空港

8月25日 関空国内線 やや持ち直し

関西エアポートが公表した7月の関空の国内線発着回数は、前年同月比46%減の2374回で減少幅は6月より26ポイント改善した。国際線旅客便は97%減と1ポイントの改善に留まった。

8月31日 大韓航空 コロナ運休後初 関空－仁川線を運航

大韓航空は、9月9日に関空－仁川線を運航すると発表した。新型コロナウイルス感染拡大の影響で運休して以降、初めての関空－仁川線の運航となる。

9月10日 関空－台北線を一部再開

ピーチ・アビエーションは、10月25日から関空－台北線の運航を週3便で再開すると発表した。同社は3月20日に国際線全路線を運休しており、約7カ月ぶりの運航となる。

10月7日 ティーウェイ航空 運航再開

韓国格安航空会社のティーウェイ航空は、11月5日から関空－仁川線の運航再開を発表した。日本、韓国の両国間で入国制限が一部緩和されることに伴い、週1往復便の運航を行う。

10月16日 ピーチ、「A320neo」を導入

ピーチ・アビエーションは、国内線に新たに導入するエアバス社製の「A320neo」初号機を公開した。同機種の導入は国内LCCでは初めてで、25日に関空発の国内線で初就航する。

10月23日 関空総旅客 過去最低 87万人

関西エアポートは、関空の2020年度上半期（4～9月）の利用状況を発表した。総旅客数は前年同期比95%減の87万5667人となり、上半期としては開港以来、過去最低を記録した。

10月26日 関空、拡張は万博後

関西エアポートは、関空の第1ターミナル改修の着工時期を今年12月から来年6月に延期、2025年の大阪・関西万博の開幕前としていた完成時期が2026年秋にずれ込むと発表した。

10月30日 関空－香港線 運航再開

キャセイパシフィック航空は、旅客需要の減少に伴い運休していた関空－香港線を11月21日と11月28日に各日1往復便の合計2便で運航すると発表した。

11月2日 ビジネス渡航者向けコロナ検査開始

近畿大学医学部関西国際空港クリニックは、出国前のビジネス目的の海外渡航者に対する新型コロナウイルスのPCR検査を開始した。西日本の空港としては初めての取り組み。

11月2日 関空－台北線を新規就航

関西エアポートは、台湾のスターラックス（星宇）航空が、12月15日より関空－台北線を週2便で新規就航すると発表した。同社の日本への定期便の就航は、関空が初となる。